

Japanese Graded Readers

# レベル別 日本語多読 ライブラリー



にほんご よむよむ文庫

レベル **3** vol.1 **4**

# この人だあれ？ お札の話



作 = 近藤 真須子  
松田 緑  
小田 正子

挿絵 = 宇田川のり子  
監修 = NPO法人日本読書振興会

にほんご よむよむ文庫 レベル3

ひと  
この人だあれ？  
～お札<sup>さつ</sup>の話<sup>はなし</sup>～

作(さく)：近藤 眞須子(こんどう ますこ)

松田 緑(まつだ みどり)

小田 正子(おだ まさこ)

挿絵(さしえ)：宇田川 のり子(うだがわ のりこ)

監修(かんしゅう)：NPO法人日本語多読研究会(にほんご たどく けんきゅうかい)

<監修者紹介>

NPO 法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

---

当研究会は、学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって、2002年1月に発足しました。2006年9月にNPO法人になりました。「レベル別読みもの」を開発したり、それらを使った「多読」の授業の実践・研究をしたりしています。 <http://www.nihongo-yomu.jp>

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル3] vol.1

この人だあれ？ お礼の話

---

2006年10月10日 初版 第1刷 発行

2011年8月30日 初版 第3刷 発行

---

著者：近藤真須子 (日本語多読研究会会員・日本語教師)「野口英世」

：松田 緑 (日本語多読研究会会員・日本語教師)「樋口一葉」

：小田 正子 (日本語多読研究会会員・日本語教師)「福沢諭吉」

作画：宇田川 のり子

監修：NPO 法人 日本語多読研究会

協力：関山 英夫 (元野口英世記念会総理事)

ナレーション：大山 尚雄「野口英世」「福沢諭吉」／篠原 明美「樋口一葉」

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：有限会社トライアングル

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 <http://www.ask-digital.co.jp>

印刷・製本：株式会社光邦

---

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO 法人日本語多読研究会 2006

Printed in Japan ISBN978-4-87217-626-1

## 日本語を勉強しているみなさんへ

「にほんごよむよむ文庫」は、

日本語を勉強しているみなさんのための「読みもの」シリーズです。

楽しみながらたくさん読んでください。

やさしいものからたくさん読むと、知らないうちに漢字の読み方や言葉が身につきます。

読んだ話をCDでも聴いてみてください。読みながら聴いてもいいですよ。

目からも耳からもどんどん日本語を吸収しましょう！

## 「にほんごよむよむ文庫」4つのルール

- 1 やさしいレベルから読む。
- 2 辞書を引かないで読む。
- 3 わからないところは飛ばして読む。
- 4 進まなくなったら、他の本を読む。



にほんご よむよむ文庫 レベル3

ひと  
この人だあれ？  
～お札<sup>さつ</sup>のはなし<sup>はなし</sup>～

作（さく）：近藤 眞須子（こんどう ますこ）

松田 緑（まつだ みどり）

小田 正子（おだ まさこ）

挿絵（さしえ）：宇田川 のり子（うだがわ のりこ）

監修（かんしゅう）：NPO法人日本語多読研究会（にほんご たどく けんきゅうかい）



ひだりうえ のぐちひでよ  
(左上) 野口英世

みぎうえ ひぐちいちよう  
(右上) 樋口一葉

ひだりした ふくざわゆきち  
(左下) 福沢諭吉

さいむしよほう - むべーじ  
(財務省ホームページより)

## 日本のお金

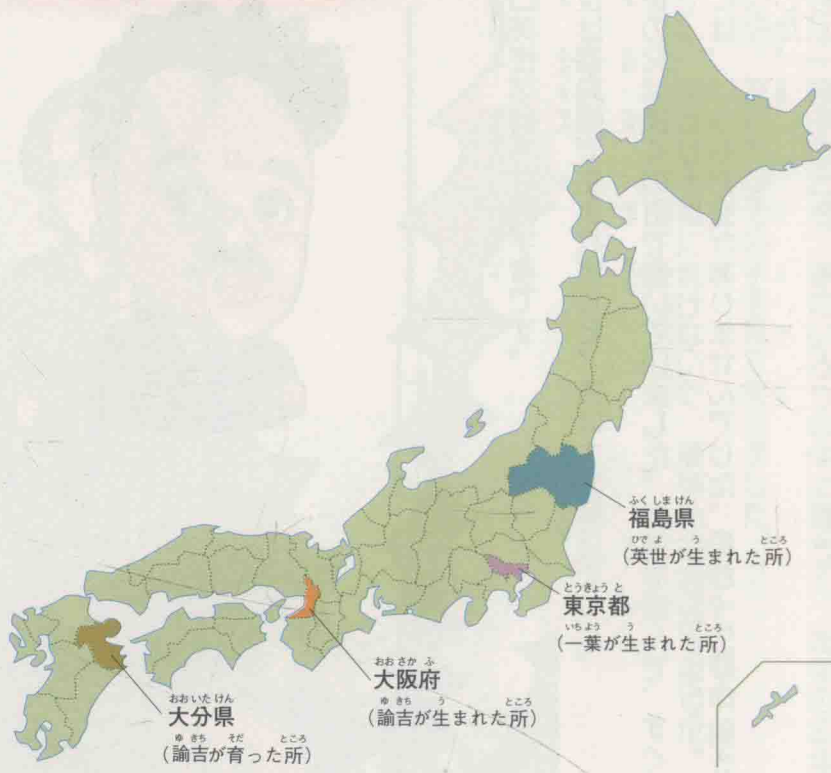
日本には、千円、二千元、五千元、一万元のお札(紙のお金)があります。日本のお札を作る技術は、大変進んでいます。世界で一番、偽札(本当の物ではないお札)を作るのが難しいと言われています。

お札には、日本の有名な人の顔が描かれています。二〇〇四年から、千円札は野口英世、五千元札は樋口一葉になりました。一万円札は福沢諭吉のままです。

この三人は、どんな人たちだったのでしょう?

さんにん う そだ ところ

# 3人が生まれ育った所







野口英世 (一八七六〜一九二八年)

野口英世は有名な医学者です。

英世は福島県で生まれました。家は大変貧乏でした。

英世の父は遠くの町で働いていました。お酒を飲んで、すぐお金を使ってしまうので、母が一生懸命働きましたが、生活はよくなりませんでした。

英世は一歳半のとき、家のいろりの中に落ちて、左手の五本の指が開かなくなりました。子どもの頃、友だちがその手を見て笑いました。

しかし、英世はそれに負けないで、頑張って勉強しました。学校の成績は、いつも一番でした。



お金持ちの子どもは、小学校が終わると高等小学校に四年間行きます。英世も行きたいと思いましたが、お金がありませんでした。

高等小学校の小林栄先生は、英世が頭のいい子どもなので、英世のためにお金を出してくれました。英世は高等小学校に行くことができました。

小林先生は、このときから、ずっと英世を助けました。

高等小学校四年のとき、英世は左手の手術を受けました。開かない左手の指の間を切りました。指が少し動くようになりました。

手術のお金は、校長先生、他の先生たち、それに、友だちも出してくれました。このとき、英世は医者になりたいと思いましたが、でも、お金がない英世は大学に行けないので、自分で勉強して医者になろうと思いました。

高等小学校が終わると、英世は、手の手術をした渡部先生の病院で、手伝いをしながら勉強しました。友だちが遊んでいるときも、いつも医学や外国語の本を読んでいました。

三年後、英世は東京へ行きました。医者になる試験を受けるためです。

医者になるためには、二回の試験に合格しなければなりません。一か月後、一回目の試験に合格しました。次の年、二回目の試験に合格しました。英世は、二十歳という若さで、医者になったのです。



手術を受けた英世（右）（財団法人野口英世記念会所蔵）

このように、英世はとても頭のいい人で  
したが、少し変わったところがありました。  
お金があると、すぐ酒や遊びに使ってしま  
いました。そして、風呂にあまり入らない  
で、いつも汚れた着物を着ていました。  
頭がよくて、立派な英世の話ばかりが  
有名ですが、英世にはこんなところもあつ  
たのです。

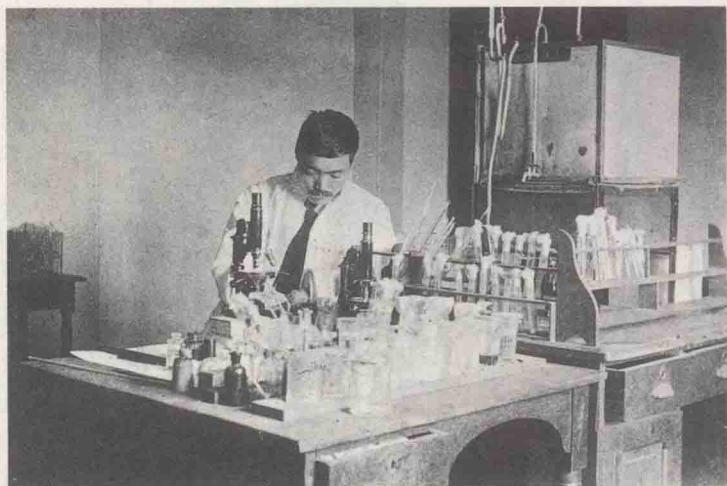


ひでよ 英世は医者になつた後も、もつと勉強したいと思つて、その後、順天堂医院や伝染病研究所  
はたら 働きました。しかし、他の医者のように、自分がしたいように研究することができませんで  
した。なぜなら、ひでよ 英世は大学を出ていなかったからです。

この頃、ひでよ 英世は、さいきん 細菌（人を病気にするとともに小さい生物）の研究が大切だと考えていたの  
で、あめりか 大学の大学で研究しようと思ひました。

あめりか へ行くことが決まつたとき、いろいろな人からお金をもらいました。しかし、その  
お金も、出発する前にいつものように使つてしまいました。小林先生などに、また助けても  
らつて、やつと出発できたのです。





英世は、アメリカに行つてから一度だけ、日本に帰つたことがあります。一九一五年の  
ことでは、母から手紙が来たからです。

一九〇〇年、二十四歳の英世はアメリカへ行きました。外国で勉強する日本人は、あまりいなかった頃のことです。英世はいつも研究室にいたので、周りの人に「あの日本人は、いつ寝るのか」と言われていました。英世はアメリカの大学で細菌の研究をして、数年後、アメリカやヨーロッパで有名になりました。

英世は、一九〇九年、京都帝国大学(今の京都大学)で、一九一四年、東京帝国大学(今の東京大学)で博士になりました。

英世は、アメリカに行つてから一度だけ、日本に帰つたことがあります。一九一五年の





その頃、南アメリカでたくさんの方が「黄熱病」で死にました。黄熱病というのは、体が黄色くなり、高い熱が出る病気です。

英世は黄熱病を調べに南アメリカへ行きました。その後、西アフリカでも黄熱病で人がたくさん死にました。英世は黄熱病をもっと調べたいと思って、西アフリカのアクラ（ガーナの町）へ行きました。南アフリカでも西アフリカでも、英世は病気の人のために一生懸命働きま

した。  
しかし、五十一歳のとき、英世も黄熱病になって、死んでしまいました。世界中の人が英世の死を悲しく思いました。

英世の墓は、ニューヨークにあります。



アフリカで研究する英世

(財団法人野口英世記念会蔵)